

主体的に考える児童の育成
— 互いに深め合う協働的な学習を通して —

研究全体会「次年度の研究について」(16:00~)

(1) 校長先生から

(2) 次年度の研究について

1 今年度の研究主題を基にして、「協働的」な学びの視点を絞りながら研究を進める。
(3人)

○どの教科も協働的な学びが必要になってくるので、各教科でどんなことができるのか探っていきたいと思うから。

○複数の教科を見させていただきましたが、どの先生方も協働的な学びの視点に立って、それができそうな学習活動を工夫していたと思います。それを工夫することで、児童の考え方の変容が見られたと思います。

○協働的な学びについて、学校として共通認識を持つことは、今日的な教育課題に合致し、必要なことだと思うから。

2 今年度の研究主題を基にして、国語科において研究を進める。
(4人)

○各教科で研究することで、教科の特性に合わせた勧め方などを学ぶことが出来た。しかし、研究の積み重ねや課題を引き継いでいくことを考えると、一つの教科に絞っていった方が研究を深めることができると思う。教科の中でも、研究主題から国語科が適していると思う。

○視点を絞ることで、より深い研究ができるのではないかと考えた。新学習指導要領においても「対話的で深い学び」ということが本校の研究と一致しているので、主題はそのままに教科を一つにしてもよいと思った。また、単元を入れ替え、国語科の同じねらいの教科で1～6年まで授業してみることも系統性があり、研究としてよいのではないかと考えた。

○各教科の学習の積み重ねが明確に見えるように、教科をしぼったほうがよいと思います。読み取りの力はあると思うので、思考を整理する力や考えたことを相手に分かるように整理して伝える力を付けるような取組みがよいと思います。「書くこと」にしぼるのは難しいと思うのですが、この学年では、ここまでの力を付ける(現実的な目標、「を」「は」を正しく書けるとか、一つのことを三つ以上の文で書けるとか)という目標はあってもよいと思います。

3 研究主題を変更し、国語科における「書くこと」の指導について研究を進める。
(1人)

○文集光など、本校の実態を考えると「書くこと」の分野において課題が大きいから。

4 その他
(2人)

○今年度いろいろな教科の授業を見たり指導を受けたりすることができ、あまり自分から進んで研究に取り組むことのなかった教科について学ぶことができてよかった。一方、一つの教科を全員で研究することで、より深く学べたり学年の系統だてての研究もできると思うので、1か2か決められません。

(4) 教頭先生から